

2024年度企画

岡山大・広島大・徳島大・愛媛大・山口大

YAMAGUCHI UNIVERSITY

瀬戸内地方における技術職員の専門分野活動報告(オンライン)

【背景】

大学の技術職員は、教員と密接に連携し、教育・研究活動を円滑に進めるための基盤を支えている。そのため、**専門的な知識と技術力**、**コミュニケーション能力**が求められる。

【課題】

- ・ 技術の進化、新しい機器や手法など最新の知識とスキルを習得し、**更新し続ける必要がある**
- ・ 人、資金に限りがあること、最新機器の導入困難であること、既存機器のメンテナンスなど**平常業務が重要**である
- ・ 安全基準や規制が厳格化される中、それに対応するための**教育や対策の導入が重要**である



～対応策の提案～

多種多様な業務に携わる技術職員の専門的な知識と技術力の向上には、広域的な**人的ネットワークの活用**が効率的、効果的であり、最新の技術やベストプラクティスを共有し、自身のスキルアップに役立てることが重要

⇒ 既存の人的ネットワークは、技術職員個人任せになっている面が否めず、**大学技術職員組織をまとめる立場から**人的ネットワークの活用機会を構築する

専門分野での括りで、共通の課題、過去からの課題を共有すること、そして、その課題に共同で取り組むことが有効

《期待される効果》

- ・ **技術職員の人材育成**
他機関の活動から課題の共有→解決に向けた取り組み→専門的な知識と技術力の向上
課題を少なくすること、専門分野の人材育成は長期的には所属機関の研究力の向上が期待できる
- ・ 大学執行部への技術職員組織の連携、継続的な人材育成のアピール

実施計画

オンラインを利用した活動報告を実施する

活動報告は、各技術職員組織の構成される専門分野の括り(例えば、医学系、農学系、工学系では、工作系、分析系、情報系等)で実施する。なお、すべての大学技術職員組織に共通する専門分野の括りが困難である場合、同類、若しくは関連する程度までを同じ括りとする(次頁参考)。

瀬戸内地方における技術職員の専門分野活動報告

開催例

開催例として**機械工作製作分野(仮称)**を示す



活動報告から
始めよう



活動報告 機械工作製作分野(仮称)

技術研究会の地方版(報告内容が活動報告であるので、技術が必須ではない)

⇒ そのため、参加の自由度が高い ⇒ 重ねるごとに技術的要素を加える

- ・ 参加者間による質疑応答による理解度の向上
- ・ 参加機関外の招聘もオンラインだから柔軟に対応可能
- ・ **技術職員組織が連携**しているため、継続的な開催が期待できる

⇒ **継続的な人材育成** ⇒ 回数を熟すことで研修化に期待(**二段構えの育成プラン**)

～将来構想～

- ・ 瀬戸内地方における専門分野を牽引する人材の輩出
- ・ 技術職員が主体となった専門分野ネットワークの構築



2024. 4. 24
機関代表者にメール

次回、開催へ
⇒ **継続的な人材育成**

参加機関代表者による支援

瀬戸内地方における技術職員の専門分野活動報告



報告内容のテンプレート

テンプレートに沿って報告することで、統一的に整理され、視聴の際の理解を支援する

①技術職員組織の中での位置づけ

技術職員が担う具体的な業務内容・組織全体の構造と技術職員の関係性

②組織構成員

職階と人数・構成員の役割と担当業務・組織内での協力体制

③運営体制（人材育成視点から）

研修プログラム・人材育成の方針とその具体的な取り組み・外部研修やセミナー参加の状況

④(機械系) 取り扱い機械の紹介

主要な取り扱い機械・特徴と用途・特徴のある機械の詳細紹介・導入した背景とその効果

⑤(機械系) 依頼に関する取り組み

依頼の受け付けから対応までの流れ・学内外からの依頼対応状況・料金体系とその設定基準・依頼数や満足度の統計

⑥(機械系) 実績と成果

過去のプロジェクトや取り組みの紹介・外部評価や受賞歴

⑦今後の展望と課題

抱えている課題とその対策・今後の目標や計画・新たな取り組みや導入予定の技術

補足

他の専門分野では、その都度テンプレート項目を修正します。ただし、①～③、⑦は共通としたいです。

瀬戸内地方における技術職員の専門分野活動報告

Q&A



Q. 参画大学に関して

A. 山口大学総合技術部が提案時まで、組織的に意見交換した(近隣)大学からスタートしています。今後、近隣大学技術職員組織を巻き込むことで専門分野ごとにネットワークが巨大化する可能性があります

Q. 機械系以外の専門分野活動報告の今後の予定

A. 山口大学総合技術部からは、フィールド系(農学)、情報系、労働安全衛生系、分析系(機器分析技術研究会があるので纏まっている感があります)、医学系、教育支援系(教室系)を準備しています。それ以外にも、参画大学の中から要望があれば準備したいと考えています

Q. 技術職員組織を介さず参加したい

A. 可能な限り大学技術職員組織を介して参画して頂くと、組織的にも個人的にも有意義だと考えます。ひとつに他大学の活動参加を業務と見なさない場合があります。その際に組織的に連携してる活動であること(大義名分)は重要かと思えます。今年度内であれば山口大学総合技術部が仲介することは可能です。

Q. 参画したいが、報告や発言はしたくない

A. 報告は義務ではないです。参加も義務ではないです。本活動は大学技術職員組織が連携しながら実施する人的ネットワーク活用機会の構築支援です。議論や意見出しを拝聴しているだけでも有意義だと思います(拝聴しているだけは人的ネットワーク活用機会の構築は難しいかもしれません)。また、違う専門分野の方を知る機会とポジティブに考えていただけると有意義かと思えます

Q. テンプレートの項目

A. テンプレートが絶対ではありません。必要に応じて項目の割愛や追加はアリです。

Q. 到達点(目標)

A. 活動に趣旨は、人的ネットワーク活用機会の構築支援です。活動が形骸化していると感じているなら(参加することに意義を見出せないなら)、技術職員組織の代表者にその旨申し出て頂いて廃止してください